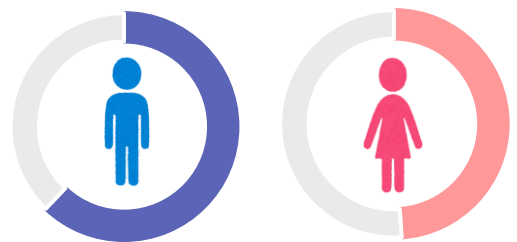


# \*\*\*各種がん検診を受診される方へ\*\*\*

がん検診とは、がんを早期に発見し、大切な命を守ることを目的とするものです。

近年、高齢化や生活習慣の変化で、日本人のがん罹患率が高まり、2人に1人ががんになると言われています。一方で、医学の進歩により、早期治療ができれば完治できるがんもかなり増えてきています。

生涯でがん罹患する確率



62.1%

48.9%

(国立がん研究センターデータより)

がんの種類	特徴
胃がん	死亡数は、肺がん・大腸がんに次いで3位。ピロリ菌という細菌や高塩分の食事が原因となることが明らか。
肺がん	最も死亡数の多いがん。喫煙者は非喫煙者に比べて危険性が高いことが科学的に証明され、また喫煙は、その他のがんや病気にも因果関係があるとされている。がん予防のためにも禁煙を！
大腸がん	5大がんの中で最も罹患数の多いがん。死亡者数は、現在2位となっており、食生活の欧米化に伴い、患者数は増加。最近では、飲酒との関係も指摘されている。
乳がん	女性のがんの中で最も多いがん。早期発見が重要で、早期に見つければ比較的治りやすい。
子宮がん	子宮頸がんは若い世代に増加。その多くがヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が関係。

## がん検診のメリットとデメリット

がん検診の最大のメリットは、早期発見・早期治療により死亡率を減らし、身体・経済的負担を軽減することです。一方、デメリットとして、命に別状のないがん(成長スピードが極めて遅いなどの理由により、治療をしなくても命を脅かさないがん)を見つけてしまう「過剰診断」、悪性を見逃す「偽陰性」、逆に異常なしを要精検とする「偽陽性」などがあります。

糸魚川市では、がん検診のメリット(がん死亡率の減少)が科学的に証明され、国が推奨している「5つのがん検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸)」と前立腺がん検診を実施しています。

## 安全のために検査実施できない事項一覧

検診を希望された場合、会場で問診を行います。下記「検診を受けることができない条件」に該当された場合や、身体状況等により検診を受けることが危険と判断された場合は、安全確保のため、検診を受けることができませんので、ご了承ください。







なお、治療中の病気がある場合は、主治医に事前にがん検診受診について相談のうえ、受診してください。

検診の種類	検診を受けることができない条件
胃がん検診	<ul style="list-style-type: none"><li>①下剤、バリウムでじんましん等のアレルギー症状(アナフィラキシーショック)が出たことのある方</li><li>②腸閉塞、腸捻転の既往がある方</li><li>③腸管憩室の治療中、過去に治療を受けたことがある方、もしくは定期的に通院している方</li><li>④検診当日を含め3日間以上排便のない方</li><li>⑤胃を全て切除している方</li><li>⑥過去1年以内に心臓や腹部、呼吸器の手術、整形外科(背骨関節等)の手術をされた方(腹腔鏡手術を含む)</li><li>⑦過去2か月以内に胃・大腸ポリープを内視鏡で切除した方</li><li>⑧腎臓病(人工透析など)や心臓病のため水分制限のある方</li><li>⑨過去1年以内に心筋梗塞や脳梗塞の病気をされた方</li><li>⑩心臓ペースメーカー、植込型除細動器(ICD)が入っている方</li><li>⑪妊娠中または妊娠の可能性がある方</li><li>⑫胃潰瘍など胃腸の病気で医療機関受診中、もしくは定期的に通院している方</li><li>⑬体重が135kgを超えている方</li><li>⑭バリウムが肺や気管に入ったことがある方(誤嚥)</li><li>⑮撮影台から転落のおそれや撮影が困難、自立歩行が困難または撮影台の手すりを握ることが難しい、検査のための体位変換(寝返り)ができない方</li><li>⑯過去1年以内にてんかん発作のあった方</li><li>⑰メニエール病の治療中または自覚症状のある方</li><li>⑱脳亢進シャント(VPシャント)のある方</li><li>⑲検診時の血圧が180/110mmHg 以上の方</li><li>⑳持続グルコース測定器・インスリンポンプを装着しており、取り外しができない方、または取り外しの許可を主治医に確認していない方</li><li>㉑人工透析をしている方</li><li>㉒在宅酸素療法をしている方</li><li>㉓人工肛門を造設している方</li><li>㉔消化管の穿孔(穴が開いた)で治療を受けたことがある方</li><li>㉕糖尿病治療中で、健診当日に食事をしないで糖尿病の薬を飲んだ、インスリン注射を使用した方</li><li>㉖治療をしていない鼠径ヘルニアがある方</li><li>㉗過去1年以内に前立腺の手術、卵巣・子宮など婦人科の手術をされた方(腹腔鏡手術を含む)</li></ul>

検診の種類	検診を受けることができない条件
肺がん検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>①妊娠中または妊娠の可能性がある方</li> <li>②持続グルコース測定器・インスリンポンプを装着しており、取り外しができない方、または取り外しの許可を主治医に確認していない方</li> </ul>
乳がん検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>①妊娠中または妊娠の可能性がある方</li> <li>②豊胸手術(ヒアルロン酸等の人工物の注入を含む)をされている方</li> <li>③心臓ペースメーカー、植込型除細動器(ICD)が入っている方</li> <li>④皮下埋込型ポート使用の方など、乳房内に人工物(ヒアルロン酸注入、脂肪注入含む)が入っている方</li> <li>⑤脳亢進シャント(VPシャント)のある方</li> <li>⑥しこり等自覚症状がある方、乳房の病気で医療機関で経過観察をされている方</li> <li>⑦授乳中または卒乳後6か月を経過していない方</li> <li>⑧持続グルコース測定器・インスリンポンプを装着しており、取り外しができない方、または取り外しの許可を主治医に確認していない方</li> <li>⑨6か月以内のけがや手術で胸部に傷口がある方</li> <li>⑩乳房の撮影体位(姿勢)が保てない方</li> </ul>
子宮頸がん検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>①妊娠中または妊娠の可能性がある方</li> <li>②子宮全摘出手術を受けた方 <ul style="list-style-type: none"> <li>※子宮を全摘出された場合、子宮頸部と子宮体部の両方がなくなります。子宮頸がん検診は子宮頸部の細胞を採取して調べる検査です。摘出により採取する部分がなくなるため、今年度からは検診の対象外とさせていただきます。</li> <li>術式によっては子宮頸部や卵巣を残す場合もありますが、その際は医療機関で医師と相談のうえ、エコー等の検査方法での検診をお勧めします。</li> </ul> </li> <li>③子宮がんの治療中または子宮頸部の異常で定期的に医療機関を受診している方</li> <li>④出産後6か月が経過していない、または経過しているが出血のある方</li> <li>⑤中絶手術後3か月が経過していない、または経過しているが出血のある方</li> </ul>

※安全に検診を実施するため、当日の問診やお身体の状態などにより、上記以外のことでも検査をご遠慮いただくことがあります。

# 糸魚川市で実施しているがん検診（★印は国が推奨している5つのがん検診）

検診の種類 (対象年齢)	検査方法／検診間隔	精密検査内容 (医療機関実施)
<b>★胃がん検診</b> (40歳以上) 	<b>胃部エックス線検査／1年に1回</b> ▶発泡剤とバリウムを飲み、検診台で身体の向きを変えながら胃の粘膜に異常がないか調べます。 ▶検査後下剤を飲みバリウムの速やかな排せつを促します。	胃内視鏡検査
<b>★肺がん検診</b> (40歳以上) 	<b>胸部エックス線検査／1年に1回</b> ▶肺に異常な影がないか、心臓の形に異常がないかどうか調べます。 ▶問診の結果で痰の検査をお勧めする場合があります。	CT検査や気管支内視鏡
<b>★大腸がん検診</b> (40歳以上) 	<b>便潜血検査／1年に1回</b> ▶検査容器に採便することで、便に混じった血液を検出する検査です。	全大腸内視鏡検査 や注腸X線検査
<b>★乳がん検診</b> (40歳以上) 	<b>マンモグラフィ／2年に1回</b> ▶乳房を圧迫し、平坦にしてエックス線写真を撮ります。	マンモグラフィ追加撮影や超音波検査、細胞診・組織診
<b>★子宮頸がん検診</b> (20歳以上) 	<b>視診・内診・頸部細胞診／2年に1回</b> ▶細胞診では、医師が子宮頸部からブラシなどで細胞をこすりとります。	HPV検査やコルポスコピー検査、細胞診・組織診
<b>前立腺がん検診</b> (50歳以上) 	<b>PSA検査</b> ▶血液中のPSA(前立腺特異抗原)を測定します。	PSA再検査や直腸診、経直腸前立腺超音波検査、前立腺生検

## がん検診は自覚症状がない方が対象です

がん検診の目的は、無症状のうちにがんを早期発見し、適切な治療を行い、がんによる死亡を減少させることです。したがって、検診は自覚症状のない方が対象です。

自覚症状がある方は、検診を待たずに医療機関を受診してください。